

平成19年度関東高等学校男子バスケットボール大会 第61回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

Result

平成19年6月3日(日)
深谷市総合体育館(ビッグタートル)
Mコート 第4試合 Aブロック決勝

チームA	13 - 20	チームB
八王子	{ 7 - 17 21 - 27 20 - 20 }	湘南工大附
61	84	

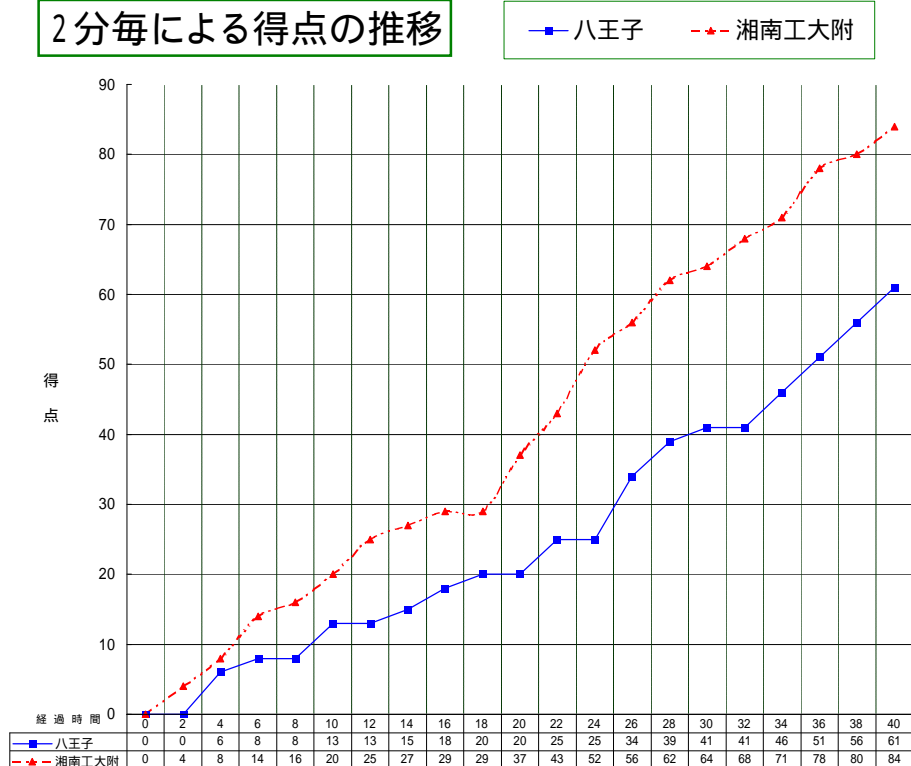
八王子

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	出場時間 単位:分
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF			
4	平塚 雷太	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
5	鈴木 喜暁	13	3	4	2	5	0	3	2	9	8	1	2	
6	五百部 浩志	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
7	エムバツ ヨーロッパ													
8	中島 一海	6	0	0	3	0	0	0	1	0	4	1	0	
9	橋本 貴智	20	4	8	4	12	0	0	2	1	3	0	2	
10	寺脇 玄	14	0	0	7	8	0	0	1	4	6	1	1	
11	板垣 祐輔	1	0	1	0	17	1	2	1	0	5	1	2	
12	小宮山 怜宇	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	1	1	
13	東域 皓太	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
14	岩崎 大樹	2	0	0	1	2	0	0	0	1	0	1	0	
15	檜原 慈温	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	
16	阿部 寿輝													
17	河崎 涼介	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
18	清水 達人													
コーチ	石川 淳一													
		61	8	17	18	48	1	5	7	15	28	6	9	0
		確率	47.1%		37.5%		20.0%			計	43			

湘南工大附

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	出場時間 単位:分
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF			
4	森田 洋介	22	2	8	7	14	2	2	2	0	2	3	8	
5	清田 翔馬	8	0	0	4	8	0	0	3	3	5	3	2	
6	芹澤 義仁	10	0	1	4	6	2	2	0	2	3	2	0	
7	高橋 考爾	10	0	4	5	6	0	1	0	2	4	3	3	
8	星野 健太	4	0	0	2	4	0	0	0	0	2	0	0	
9	最賀 諭紀	2	0	1	1	3	0	0	0	1	0	1	0	
10	佐藤 祥啓	4	0	0	1	1	2	2	1	0	0	0	0	
11	鈴木 翔大	4	0	0	2	4	0	1	0	0	0	1	0	
12	小倉 圭輔	4	0	0	2	3	0	0	1	0	0	1	0	
13	山田 夏輝	0	0	1	0	2	0	0	0	1	0	1	2	
14	藺 隆太	2	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	
15	大野 元志	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	
16	野添 駿	2	0	1	1	1	0	0	0	0	4	0	0	
17	大野 将司	6	2	5	0	0	0	0	1	0	1	0	0	
18	岸 涼太	4	0	0	2	3	0	0	2	0	0	0	4	
コーチ	横山 秀夫													
		84	4	22	33	57	6	8	10	9	21	16	20	0
		確率	18.2%		57.9%		75.0%			計	30			

2分毎による得点の推移



戦評

これまで湘南は豊富な運動量と#4森田の巧みなボールコントロールを武器にアウトサイドからの攻撃を起点としてきた。一方八王子はチームを引っばってきた#7ワドウを故障で欠く。
第1P、硬さのみられる両チームではあったが、始めにペースをつかんだのは湘南。#18岸のブレイク、#6芹澤のミドルシュートと連続得点する。中盤以降やや疲れの見られる#4森田ではあるが、アシストパス、シュートと冴えゲームを支配する。一方八王子も#10岡部がゴール下を確実に決め頑張りを見せる。
第2P、流れは完全に湘南。#4森田を中心に早いバスケットを展開。4分過ぎ八王子もようやく#11板垣がリバウンドからシュートを決める。残り2分、10点差ついたところで八王子タイムアウト、その後ペースをつかんだのは湘南、連続得点でその差をぐっと広げ17点差で前半終了。
第3P、オールコートマンツーマンで一氣にたたみかける湘南、八王子も#9橋本の3P、#5鈴木の速攻と意地を見せる。
第4P、流れを変えたい八王子、こまめに選手を入れ替えるが湘南の速い動きに翻弄される。八王子も粘りをみせたが、最後は湘南選手全員を起用し、文字通りチーム一丸の優勝となった。

主審 清水 幹治(指名)

副審 吉田 憲生(埼玉)

戦評 柳澤 重喜